

科目名	医学物理特殊研究			分野・必選別・ 単位数	専門科目	必修	12単位
担当教員	◎教授 小林毅範 教授 古徳純一 教授 大谷浩樹					授業方法	演習
課程	博士後期	配当年次	1～3年	配当学期	通年	配当コース	医学物理士コース
授業の概要	理工学関連領域を医学分野に応用する医学物理や先端医療の課題に関して高度な独創的研究に取り組み、博士論文の作成をする。						
授業の到達目標	①医学物理の課題に関して高度な独創的研究に取り組み、博士論文の作成をする。 ②課題に関して、その理論および内容を系統立て、説明できる。						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	次ページ以降、教員別に記載						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】						
	【事後学修】						
	【必要時間】						
教科書							
参考書							
評価方法							
その他履修上の注意事項							

科目名	医学物理特殊研究(*1)			分野・必選別・ 単位数	専門科目	必修	12単位
担当教員	◎教授 小林毅範					授業方法	演習
課程	博士後期	配当年次	1～3年	配当学期	通年	配当コース	医学物理士コース
授業の概要	博士前期課程での内容に引き続き、物理学を基盤とした次世代放射線医療科学の研究に取組み、博士論文の作成ができるようにする。						
授業の到達目標	①現代放射線医療で指導的な立場にたつ人材になることを目的とする。 ②博士論文の作成ができる。						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	<p>【研究テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> モンテカルロ法による線量計算 次世代医療用放射線検出器の開発 汎用画像評価プログラムの開発 <p>など</p> <p>【研究課題】</p> <p>医学物理の先端医療への応用</p> <p>【行動目標】</p> <p>文献講読、課題選択、研究方法選択などの活動を通して研究者としての素養を身に付ける。 論文作成、学会発表を通して研究成果の報告方法について研究者としての素養を身に付ける。</p>						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定した文献の次回研究部分を事前に読んでおくこと。 回りの研究内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	研究時の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、回りの研究までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に180時間以上の予復習が必要。					
教科書	特に定めない。適宜、文献を指定。						
参考書	特に定めない。適宜、文献を指定。						
評価方法	中間報告40%、課題報告・発表60%						
その他履修上の注意事項	(*1)2016年度以前入学生カリキュラムでは、科目名「診療放射線学特殊研究」1年前期に倫理教育「eLCoRE」を受講し、修了していること。 課題は適宜与える。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						

科目名	医学物理特殊研究(*1)			分野・必選別・ 単位数	専門科目	必修	12単位
担当教員	◎教授 古徳純一					授業方法	演習
課程	博士後期	配当年次	1～3年	配当学期	通年	配当コース	医学物理士コース
授業の概要	物理学を基盤とした次世代放射線医療科学の研究を行う。研究成果をもとに博士論文を作成する。						
授業の到達目標	①現代医学物理の指導的な立場にたつ人材になることを目的とする。 ②物理学を基盤とした次世代放射線医療科学の研究をおこない、博士論文の作成ができる。						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	<p>【研究テーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高速線量計算アルゴリズムの開発 2. 適応放射線治療のための線量予測アルゴリズムの開発 3. 動体追跡の精度を大幅に向上させる測位技術と予測モデルの開発 4. ハイパフォーマンスコンピューティングを実現するアルゴリズムとハードウェアの開発 5. 医療ビッグデータを利用した治療最適化システムの開発 6. 医療用自動異常検知システムの開発 <p>など</p> <p>【研究課題】</p> <p>医学物理の先端医療への応用</p> <p>【行動目標】</p> <p>文献講読、課題選択、研究方法選択などの活動を通して研究者としての素養を身に付ける。 論文作成、学会発表を通して研究成果の報告方法について研究者としての素養を身に付ける。</p>						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定した文献の次回研究部分を事前に読んでおくこと。 次回の研究内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	研究時の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、次回の研究までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に180時間以上の予復習が必要。					
教科書	特に定めない。適宜、文献を指定。						
参考書	特に定めない。適宜、文献を指定。						
評価方法	中間報告40%、課題報告・発表60%						
その他履修上の注意事項	(*1)2016年度以前入学生カリキュラムでは、科目名「診療放射線学特殊研究」1年前期に倫理教育「eLCoRE」を受講し、修了していること。 課題は適宜与える。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						

科目名	医学物理特殊研究(*1)			分野・必選別・単位数	専門科目	必修	12単位
担当教員	◎教授 大谷浩樹					授業方法	演習
課程	博士後期	配当年次	1～3年	配当学期	通年	配当コース	医学物理士コース
授業の概要	放射線検出器の原理を応用した使用法を学修し、計測精度向上のために必要な改良点を試案する。それを基礎として医用放射線の線量評価を高精度に行うことを実践する。また、医学物理学の分野において、放射線診療の被ばく線量低減について学修し、正しく評価するための線量計測法を実践する。そして、高精度放射線治療のための治療計画および線量計測の精度向上を検討する。						
授業の到達目標	①放射線検出器の原理を応用した使用法ができる。 ②医用放射線の特徴を知り、高精度に線量評価する方法が実践できる。 ③放射線診断・治療における放射線安全管理を維持できる。						
授業計画	回数	担当者	行動目標				
	【研究テーマ】 1. 放射線検出器の計測精度向上 2. 医用放射線の線量評価の高精度化 3. 放射線診療における線量計測および防護 4. 高精度放射線治療のための治療計画および線量計測 【行動目標】 医学物理に関する文献内容を熟知し、傾向に沿った内容で研究できる。 放射線検出器の理論を理解し、応用した使用法が実践できる。 医療における放射線利用について安全に管理し、それを維持できる。 医学物理の観点から放射線診断・治療の発展に関与した研究ができる。						
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	指定した文献の次回研究部分を事前に読んでおくこと。 次回の研究内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。					
	【事後学修】	研究時の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、次回の研究までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に180時間以上の予復習が必要。					
教科書	特に定めない。 適宜、文献を指定する。						
参考書	特に定めない。 適宜、文献を指定する。						
評価方法	研究報告80%、学会発表20%						
その他履修上の注意事項	(*1)2018年度以降入学生のみ履修可 1年前期に倫理教育「eLCoRE」を受講し、修了していること。 課題は適宜与える。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP3が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						